

紀伊半島大水害で得た経験や教訓を未来に継承するため、当時被災した周辺自治体が参画し、水防技術の向上・伝承を図るとともに、「流域治水」への転換の観点を踏まえ、幅広い主体が参加する実践的な訓練により、当該地域の防災知識の普及、防災意識の向上、災害対処能力の更なる向上を図ることを目的として、熊野川総合水防演習を実施しました。

- 開催日時 令和4年5月28日（土） 9：00～11：30
- 実施場所 熊野川右岸（和歌山県新宮市相筋地先）
- 実施した演習
水防工法訓練、情報伝達訓練、避難訓練、救出救護訓練 他
- 参加機関 36機関
- 参加者 山田国土交通事務次官、仁坂和歌山県知事、一見三重県知事、溝口事務局長をはじめとする約600人（来賓含む）

開会式

開会式では、山田国土交通事務次官、仁坂和歌山県知事、一見三重県知事、溝口全水管事務局長にご挨拶頂いたのに加え、来賓の二階衆議院議員、鈴木衆議院議員にもご挨拶いただきました。



国土交通大臣（代理）
山田国土交通事務次官



仁坂和歌山県知事



一見三重県知事



全水管会長（代理）
溝口事務局長代理



二階衆議院議員



鈴木衆議院議員

実施した主な演習

■ 水防工法訓練



シート張工

月の輪工

築き廻し工

積土のう工

改良積土のう工

三角水のう工

■ 関係機関との連携による総合的な訓練



情報伝達訓練

避難訓練

道路啓開訓練

被災状況調査訓練
（Tec-Force）

河川内救出訓練

救出救護訓練

閉会式

閉会式では、東川近畿地方整備局長の講評、水防指揮官へ感謝状授与を行いました。



東川近畿地方整備局長
演習の講評



感謝状授与



小島河川部長
閉会の辞

訓練のポイント

- 平成23年9月紀伊半島大水害で得た教訓を未来に継承するため、熊野川で初めて開催。
- 令和4年3月に新宮川水系（熊野川）河川整備計画を策定し、当時被災した周辺自治体が参画した訓練。
- ダム事前放流、関係機関とのタイムライン、避難訓練も演習に導入。
- 道路管理者とも連携し、堤防の高さの低い熊野大橋の通行止め措置訓練も実施。
- 建設業協会（日本建設業連合会関西支部、新宮地方建設業協同組合）との災害協定に基づいた堤防決壊後の応急復旧の実施。
- NHK、関西テレビ、読売新聞など、報道機関8社（テレビ6社、新聞2社）で報道。（5月29日時点）

河川整備基本方針・河川整備計画

○新宮川水系工事实施基本計画

河川工事の実施の基本となるべき計画に関する事項

- ・基本高水のピーク流量 19,000 /s
- ・ダムによる調節流量 0 /s
- ・河道への配分流量 19,000 /s

河川工事の実施に関する事項

- ・計画高水位
- ・計画断面

(河川法改正：平成9年)

○河川整備基本方針

河川整備の基本となるべき方針に関する事項

新宮川水系河川整備基本方針 策定（平成20年）

- ・基本高水のピーク流量 19,000 /s
- ・洪水調整施設による調節流量 0 /s
- ・河道への配分流量 19,000 /s

○河川整備計画

具体的な河川整備に関する事項

未策定のため、工事实施基本計画の一部を計画とみなす

(平成23年9月 台風12号 紀伊半島大水害)

- ・相賀地点流量 24,000 /s

○河川整備基本方針（変更）

平成23年台風12号洪水及び顕在化している気候変動を踏まえ、令和3年10月15日に河川整備基本方針が変更

- ・基本高水のピーク流量 24,000 /s
- ・洪水調整施設等による調節流量 1,000 /s
- ・河道への配分流量 23,000 /s

○河川整備計画

令和4年3月31日に河川整備計画を策定し、河川整備基本方針の目標に向けた段階的な整備を実施